

大阪府保育士会だより

平成23年5月1日

第87号

ほほえみ

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会
大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001

広くアンテナを張り変化に対応したい — 高田新会長就任あいさつ



高田テルミ会長

今、日本は、世界中の力を借りながら、ひとつになって東日本大震災の復興へと立ち向かっています。若葉が芽吹き、こいのほりを泳がせ空をわたる風が、そんな日本を後押しし

重責ひしひし、皆様のご支援を

応援してくれているよ。保育士会員の皆様にはお元気で新年度のスタートをきられたこと

「保育に欠ける子ども」を目標に次期につないでいければと考えています。どうかと重責を今、ひしひしと感じています。保育に欠ける子どもを



大西潤子前会長

東日本の方々の深い悲しみを受け止めて「がんばろう日本」の強い願いが再生の兆しとなってきました。義援金のご協力ありがとうございました。さて、お陰をもちま

ことができました。これまでの数々のお励ましとご指導に重ねてお礼申し上げます。高田会長をはじめ経験豊富な三役、常任委員の皆様が52年目へ繋いで下さることは何よりの喜びです。研修レポート、50周年記念誌編集など多くの成果物と力量にいつもわたくしもお励みしてまいりました。い

多くの方に助けられ、感激・感謝の日々

思い返せば、研修会生のご参加があり、園長先生のご理解に感謝しておりました。常任委

陰です。苦勞よりも楽しいこと、後とも倍旧のご支援を大阪府保育士会に賜りますようお願い申し上げます。

新会長に高田テルミ氏

— 23年度保育士会総会

平成23年度保育士会総会が4月21日、29

8人が参加し社会福祉指導センターで開催されました。はじめに、参加者全員で3月11日の東日本大震災で被害にあわれた方々への黙祷を捧げたあと、全国保育士会倫理綱領が読み上げられました。続いて、大西潤子会長の挨拶、来賓の方々からの挨拶のあと総会議事に入り、平成22年度事業報告・収支決算、23年度事業計画・収支予算が承認されました。今年度は任期満了に伴う役員改選期で、高田テルミ新会長はじめ新役員が承認されました。

山縣氏は「子ども・子育て新システム」における3つのワーキングチームの委員を務められていますが、震災の影響で審議は止まったまま。このため、今回の講演内容に関して決定したことではないとことわったうえ、子どもが確実に減少するであろう10年後、15年後の日本社会をイメージする必要があり、強調されました。

新役員を代表して高田新会長は、伝統ある大阪府保育士会の重責を引き継ぐにあたり、保育士の皆様方と力を合わせて子どもたちのために研鑽を積んでいきたいと思います。



えがおいっぱい 「こども動物園」



毎年11月、お年寄りから赤ちゃんまで、幅広く地域の人たちを招き、「こども動物園」を開いています。

園庭にはうさぎ、羊、鶏、アヒルなどの小動物が勢揃い。抱き上げたり、エサを与えたりして触れ合います。おかげでふだん知らない人同士の間でも笑いがあふれ、子どもを介して話しかける機会が生まれています。

都会では疎遠になりがちな、世代間の交流の場になればと願っています。

(吹田市 もみの木千里保育園)

「やまのこ」届け 絆深める



毎月、地区のお年寄りを訪ねるのが年長組の大切な仕事。月刊日より「やまのこ」を一軒一軒お届けするのです。

「おはようございます。園のおたよりです」一生懸命挨拶するのも嬉しく、迎えてくださるお年寄りも笑顔。「おばあちゃん、これ何?」「金柑やで」と会話も弾みます。

子どもたちとお年寄りの交流は、地域と園の絆を深める温かいパイプラインになっているのです。

(河内長野市 観心寺保育園)

地域とともぞ みれあい大切に



親と親を結ぶコーディネーターを目指そう

—御園会長が基調講演 第37回全国保育士研修会



第37回全国保育士研修会が2月21、22の両日、横浜市のパシフィコ横浜で開催され、全国保育士会の御園愛子会長が基調講演、また、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課の今里讓課長から行政説明が行われました。参加者は全国から526名。

御園会長の基調講演と今里氏の行政説明の要旨は次の通り。

「子ども・子育て新システムと保育」

子どもたちにとって、保育所は安心でき、居心地のよい場所であければなりません。従って保育士の役割は大変大きい。保育士一人ひとりが、責任感を持ち、子どもたちに家庭のぬくもりを感じつつ安心して遊ぶ場所を提供し、子どもと保護者に支援できるパートナーでもありたい。

母親は、子育ての過程で少しずつ親になっていく。私たちはその思いを受けとめ励ますことが大切。家庭だけでは子育てが困難な面もあるので、親が子育てについて悩まないように、親と親を結ぶコーディネーターでなければならぬ。

今、こども園(仮称)の創設に向けて検討が進められ、ワーキングチームが設置されている。メンバーに現場に関わっている人が少ないのが残念である。

現在ワーキングチームにおいて、3歳未満と3歳以上に分断するような制度が考えられているが、0、6歳は、人間形成において大切な時期であり、その発達的連続性は大変重要である。

(堺市 石津川保育園)

行政説明

「保育をめぐる国の動向と課題」

核家族化や地域の中での孤立などを背景に、地域とのつながりがなくなりつつある。そのために気軽に何かを頼める人が少なくなり、育児の相談にものってもらえないなど育児環境は厳しくなっている。

これからは働く人たちがかりが利用するのではなく、地域の中での孤立を救済するための保育所が必要になる。

平成23年度
大阪府保育士会
事業計画

4月21日
平成23年度総会
「保育をめぐる動向、保育士に求められる力を考える」
講師 山縣文治氏
6月28日

保育士研修会
「子どもに伝える性のはなし」子どもを性被害から守るために」
講師 徳永桂子氏

7月21・22日
近畿ブロック保育研究集会(滋賀県大津市)
7月末〜8月(3日間)
保育士の専門性を高める連続研修会(園長・

リーダー・主任保育士研修会)
9月7日
保育士研修会
「いま保育士に求められるもの」なぜ対話的保育が必要か(仮題)」
講師 加藤 繁美氏

10月20日・21日
全国保育士会研究大会

(鹿児島県 鹿児島市) 11月2日〜4日
全国保育研究大会(横浜市) 11月15日
保育士研修会
「絵本の選び方と読み聞かせ(仮題)」
講師 川内 五十子

2月
全国保育士研修会



学びシリーズ⑩

「子どものおもちゃと遊び」

東京おもちゃ美術館館長 多田 千尋氏

遊びの天才に失礼のないおもちゃ

私が館長を務めている東京おもちゃ美術館では、おもちゃを様々な視点から考えている。

第一にコミュニケーションを豊かにしてくれるおもちゃを尊重する。そのおもちゃで遊ぶと黙っていられないものだ。バランスの不安定さを楽しんだり、絵合わせ遊びを楽しむボードゲームやカードゲームは幼児向きのものがたくさんある。

第二にインターネットを推奨している。日本で市販されている多くのおもちゃの中には、遊び終わったら片付けたくなるようなおもちゃが少なくない。できれば、遊び終わったら、出窓やピアノ、下駄箱の上に飾っておきたくなるようなおもちゃをお勧めしたい。

第三に、子どもの遊びに

過干渉にならない
面倒見の
悪いおもちゃこそ
がグッド・
トイだと思っ
ている。子
どもがおも
ちゃとい
う道具に

果敢にアプローチをするこ
とによって楽しさがわき上
がるようなものだ。積み木
やブロックなどのクリエイ
ティブトイが代表的である。
共通していることは、ロー
テクノロジーであり、
おもちゃのカラーが低い
ということだ。ハイテク玩
具はいまや幼児期まで低年
齢化してきており、刺激も
強い高カラーのおもちゃ
であることが多い。

0歳から6歳までの遊び
の一流プレーヤー時代は面倒
見がよすぎるハイテク玩具
はあまり必要ではない。目
や耳に飛び込んでくるよう
な音や映像の過剰刺激の高
カラーおもちゃは、子ど
もたちを成人病にしてしま
うようなものだ。

そして、最も大切なグッ
ド・トイが、草花や土や貝
殻などの自然物であり、父
親や母親の手や顔や声であ
る。それらが、幼児期の子
どもにとって、贅沢なおも
ちゃであることも知っても
らいたい。

シンプルで、スタンダー
ドな物で、楽しさを創り出
すことができる遊びの天才
時期には、こうしたグッド・
トイが必要だ。

子育て支援シリーズ⑳

市と連携し乳児の体験保育を実施

参加者の声に耳傾け、心のサポートも



東日本大地震で未曾
有の被害が出ましたが、
被災者のみなさんは復
興に向け全力で頑張っ
ておられます。子ども
たちにも元氣な笑顔が
戻ってきたようです。

当園の子育て支援活
動は、0〜3歳の未就
園児の子どもが対象で
す。主に園庭開放、青
空保育、ランランひろ
ば、お誕生日会、5ヶ
月〜8ヶ月の乳児対象
の体験保育などが活動
の内容です。ほかでは
人形劇や講師の先生を
招いてさまざまな講演
会も行っています。

とくに親と子の触れ
合いを重視し、子ども
たちの成長に合わせた
遊びを行っているのが
特色です。見て聞いて、
触れて感じて、親子で

いっばい体を動か
し、笑顔があふれ
る遊び場を、と考
えながら取り組ん
でいます。

枚方市と連携を
とりながら実施し
ている5ヶ月〜8
ヶ月の乳児の体験
保育では、参加者
の方から「この時
期の子どもたちが
遊べる場がなか
ない」との声を
聞くことが多く、
今年度は新たにほ
えみサークル（5ヶ月
の0歳児対象）を追加しま
した。

回数を重ねることに参加
者が増え、毎月多くの親子
が参加されています。赤ちゃ
んマツサージ、離乳食の話、
乳児保育園ならではの遊具・
玩具で遊んだり、親子で
できる触れ合い遊びを、園児
も交え一緒に行っています。
短時間ですが、参加者の

みなさん一人ひとりの声に
しっかりと耳を傾け、心の
サポートにも努めています。

近年、保護者の方が抱え
る悩みは、子育てに限らず
複雑化、多様化しています。
そのような方々に寄り添
い、一緒に悩みを乗り越え
ていけるよう、地域貢献事
業にもしっかりと取り組んで
いきたいと思っています。

（枚方市 第一徳風保育園）



楽しい保育活動

公園で継続的に

自然とふれあい



子どもの疑問に共感し 知的好奇心を育てる



と疑問を感じたことについて自分で調べ、「もっと知りたい」という知的好奇心が育ち、いろいろな場面に対応できる意欲にも繋がっていくようです。

そんな日々の体験が「自分たちと自然が繋がっている」ことを知るきっかけとなり、自然を大切にしなければいけないという意識が芽生えるのだと思っています。

(堺市 登美丘西保育園)

当園では、近隣の公園に出かけ、四季を通して変化する木々や草花、果実などに、子どもたちの目を意識的に向けさせるようにしています。園庭が狭いこともありますが、自然に少しでも多く触れさせたいという願いからです。

植物だけでなく動物も知ってもらいたく、園から近くの養豚所を見学することもあります。また、精肉店を訪ね、お店の作業を見せてもらいます。食べているものすべてに命があり、多くの方がそれに携わっていることに気付き、「いただきます」の本当の意味を知ることでもできるのです。

自然に触れる活動は日常の中で継続して行われ、その際、保育者は教える立場ではなく、子どもが自然の中で感じたことに耳を傾け、同じ目線に立って共感することを大切にしながら言葉をかけています。

5歳児にもなる「なぜ？」



保育のあんな工夫 こんな工夫 独自の「縦割保育」で 思いやりの心を



「離乳食全部食べたよ」子どもたちからは、こんな報告を先生やお母さんにしてくれます。赤ちゃんも、最初は不安がって泣いていた子もいましたが、年間を通してふれ

りのある子を目標に、縦割保育と行事を重ね合わせた保育カリキュラムを工夫して立て、実践しています。なかでも子どもたちが乳児クラスで行うお手伝いでは、年間を通して離乳食を食べさせたり、ミルクを飲ませたり、お昼寝させたり。普段できない体験ができるので、兄弟姉妹のいない子どもたちにとってはたいへん素晴らしい思い出になっているようです。

「トントントンしたら寝たよ」

このたびの東日本大地震で被災された皆様により哀悼の意を表します。

いつ、何が起こるか分からない自然の力を改めて感じます。今、生かされていることに感謝し、今できることを頑張ろうと思われた方もたくさんいらっしゃるでしょう。

大阪府保育士会も新しいメンバーで、子どもたちの笑顔のために最善を尽くしたいと思っています。



平成23年度 大阪府保育士会 総会

平成23年度 大阪府保育士会常任委員一同

編集後記

このたびの東日本大地震

笑顔いっぱい、気持ちいっぱいのご寄稿をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております！

前を呼んでもらった



あうことで信頼関係を築くことができるようになりました。子どもたちには自分が赤ちゃんだった時の話を聞いてもピンとこない、なかなか理解できないものですが、赤ちゃんにふれあううちに、自分もこうだったのかと思うようになるようです。乳児の保護者からは、園以外の場所でも、名前を呼んでもらうこと、声をつけてもらえたり、嬉しいという声も寄せられています。このような一年を通じた活動が、子どもたちの心に強く残る体験となることを信じています。その成果を踏まえ、縦割保育活動をこれからも大いに取り入れていきたいと思っています。(八尾市 みよし保育園)